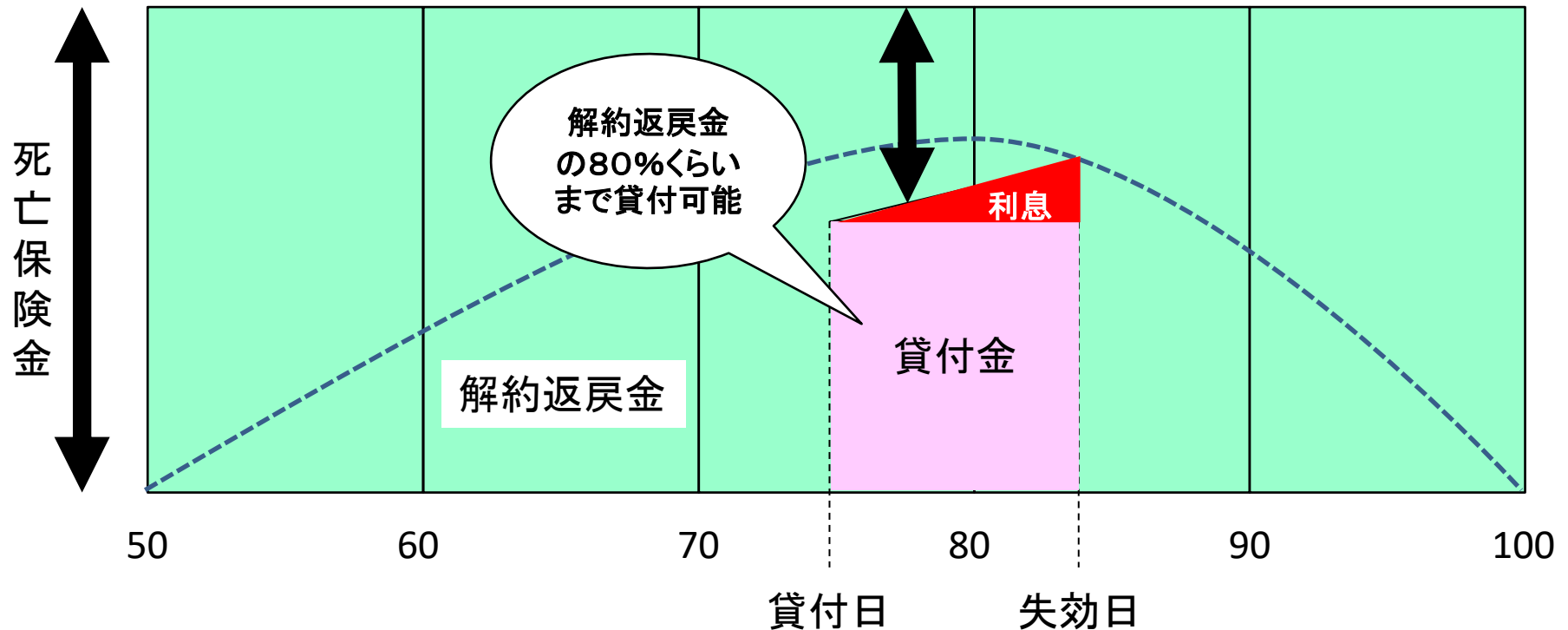


生命保険を資産として活用する方法

- 契約者貸付
- 自動振替貸付
- 払済保険
- 延長(定期)保険
- 生命保険の転換

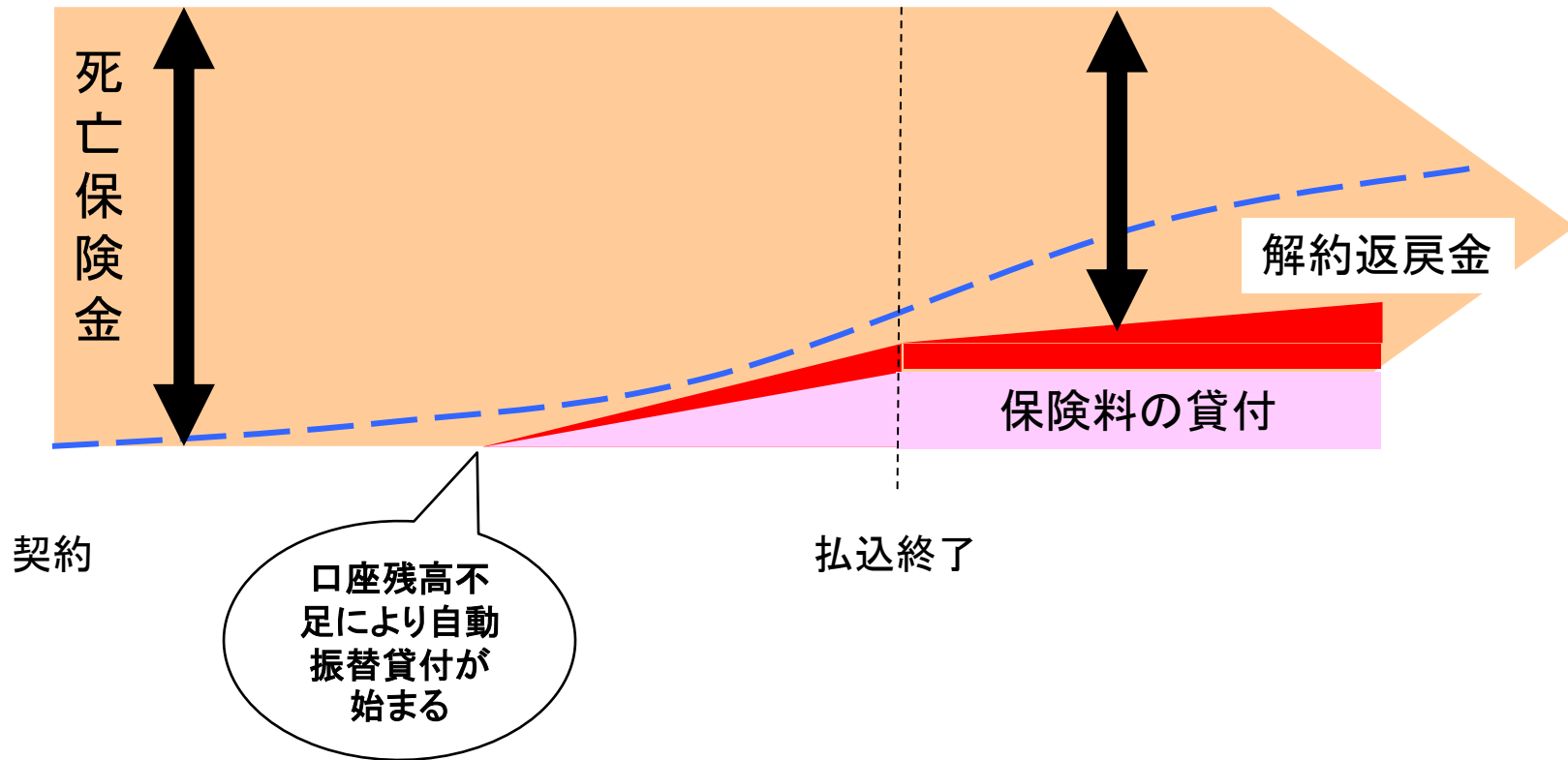
いずれも**解約返戻金**のある保険(終身保険、養老保険など)であることが必要

契約者貸付のイメージ(法人の例)



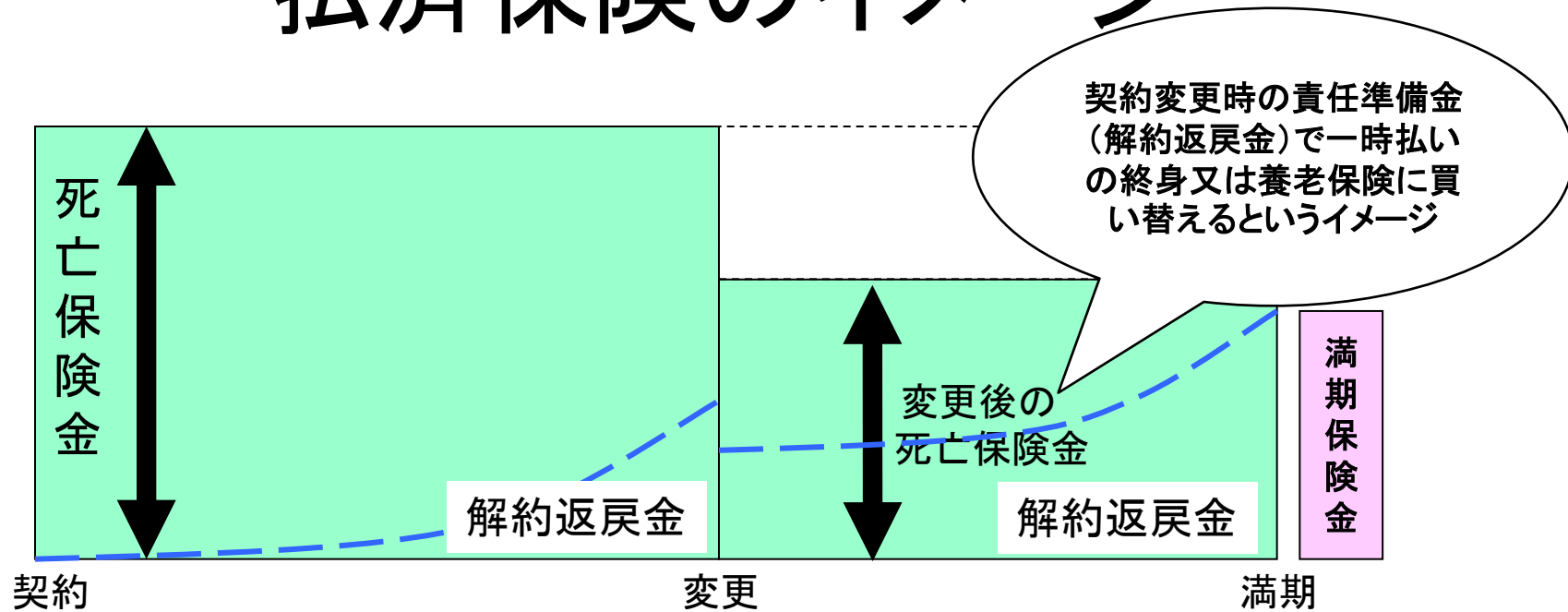
貸付元利合計額が解約返戻金の範囲を超えると保険契約は失効又は解除される場合がある。

自動振替貸付のイメージ(個人の例)



契約者が自動振替貸付に気付かず、解約返戻金が大幅に削減されながらそのまま保険が継続されてしまう可能性がある

払済保険のイメージ



(ポイント)

以後の**保険料が不要**、但し**特約は消滅する**

保険期間は原則そのままだが、保障額は減る

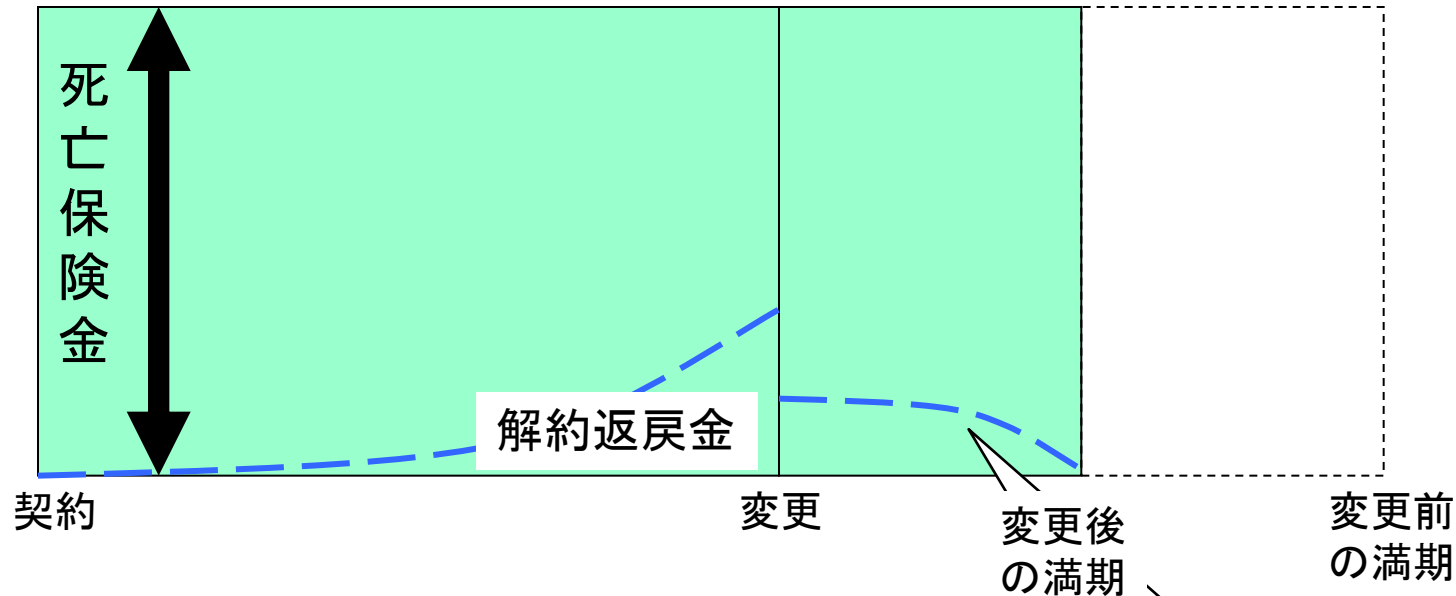
終身保険→終身保険のまま、又は養老保険へ変更

養老保険→養老保険のまま

保険の貯蓄機能を重視したい人向け

養老保険の場合、
満期保険金が出る

延長(定期)保険のイメージ



(ポイント)

以後の**保険料が不要**、但し**特約は消滅する**

保障額はそのままだが、保険期間が変わる

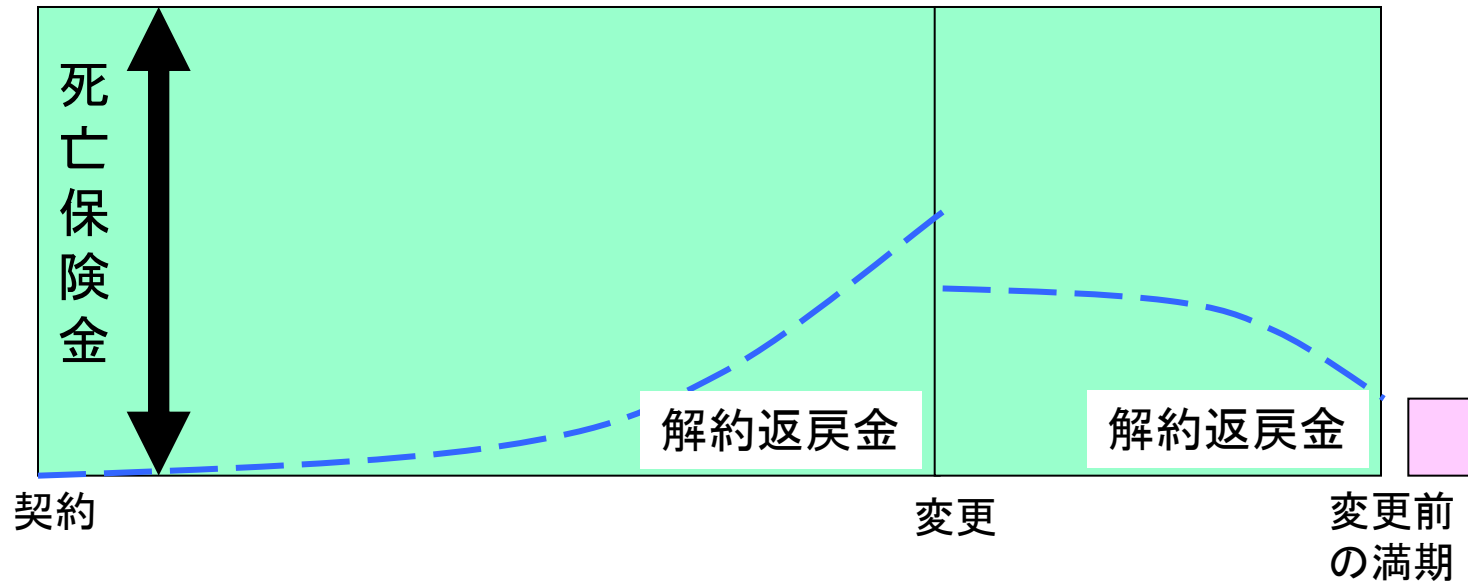
終身保険→定期保険へ変更

養老保険→定期保険へ変更

保険の死亡保障を重視したい人向け

契約変更時の責任準備金
(解約返戻金)で一時払い
定期保険に買い替える
というイメージ

延長(定期)保険のイメージ



(ポイント)

以後の**保険料が不要**、但し**特約は消滅する**
保障額はそのままだが、保険期間が変わる

養老保険→定期保険へ変更

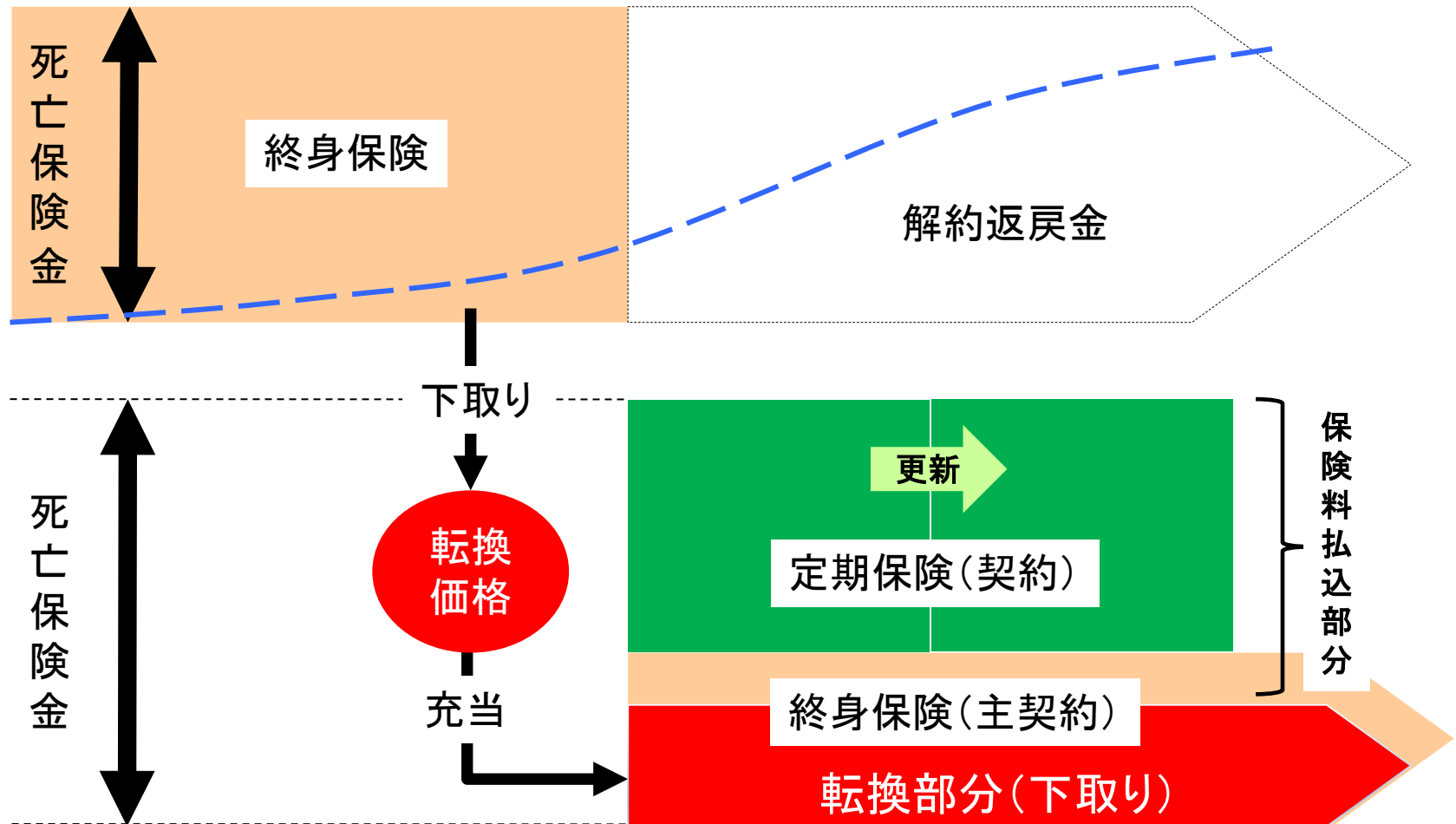
元の保険が養老保険の場合、満期保険金が出る場合もある

生命保険転換制度

- 現在の契約を活用して、新たな保険を契約する方法。
- 現在の契約の積立部分や積立配当金を**転換（下取り）価格**として新しい契約の一部にあてる方法で、**元の契約は消滅する**。
- 同じ生命保険会社でなければ利用できない。
- 転換制度利用時の年齢・保険料率により保険料を計算する。
- 告知（または診査）が必要

(例) 基本転換

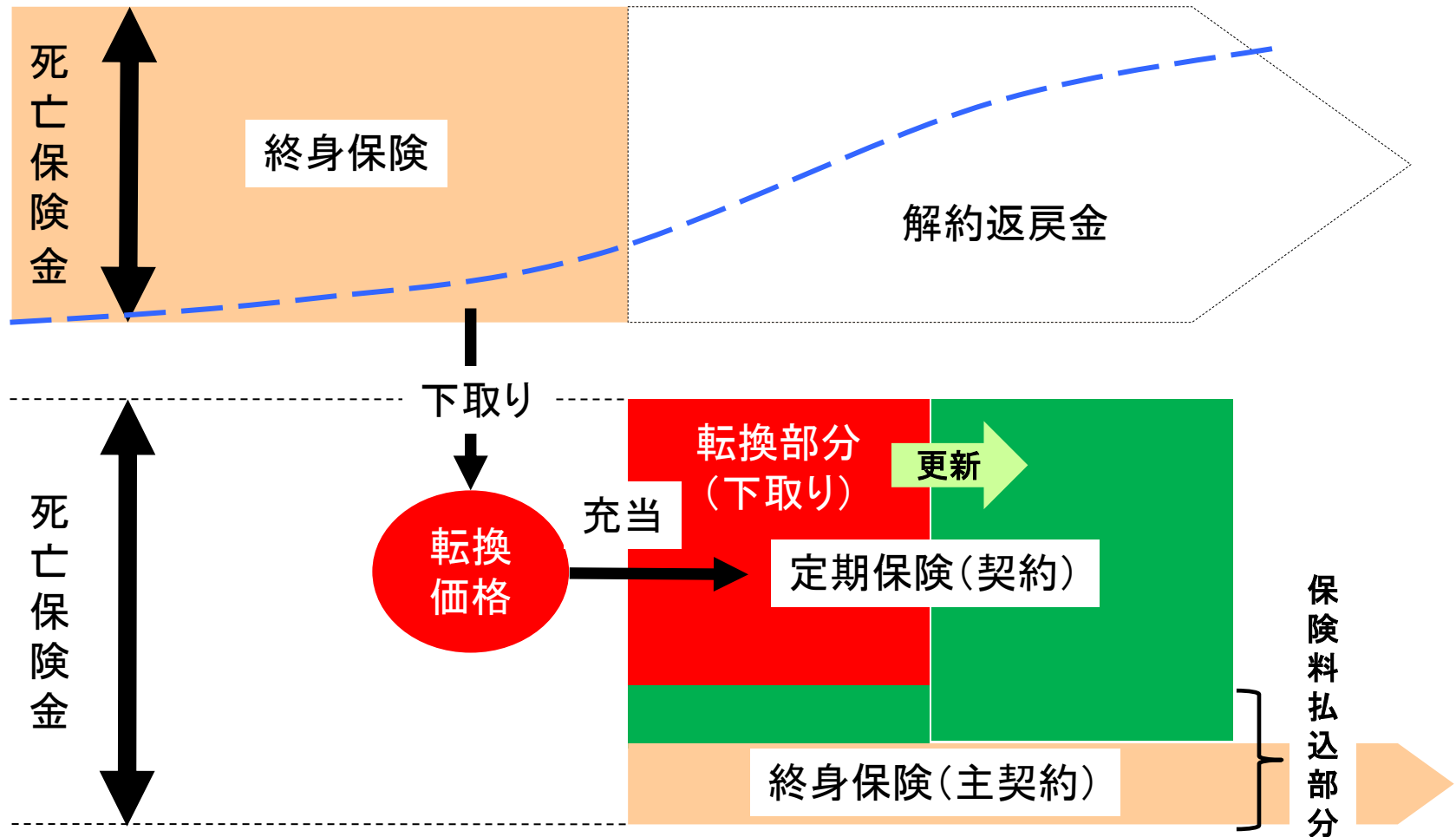
転換前の保険(一定額以上の解約返戻金のある保険)



転換価格を主契約(終身保険)のみに充当する方式

(例) 定特転換

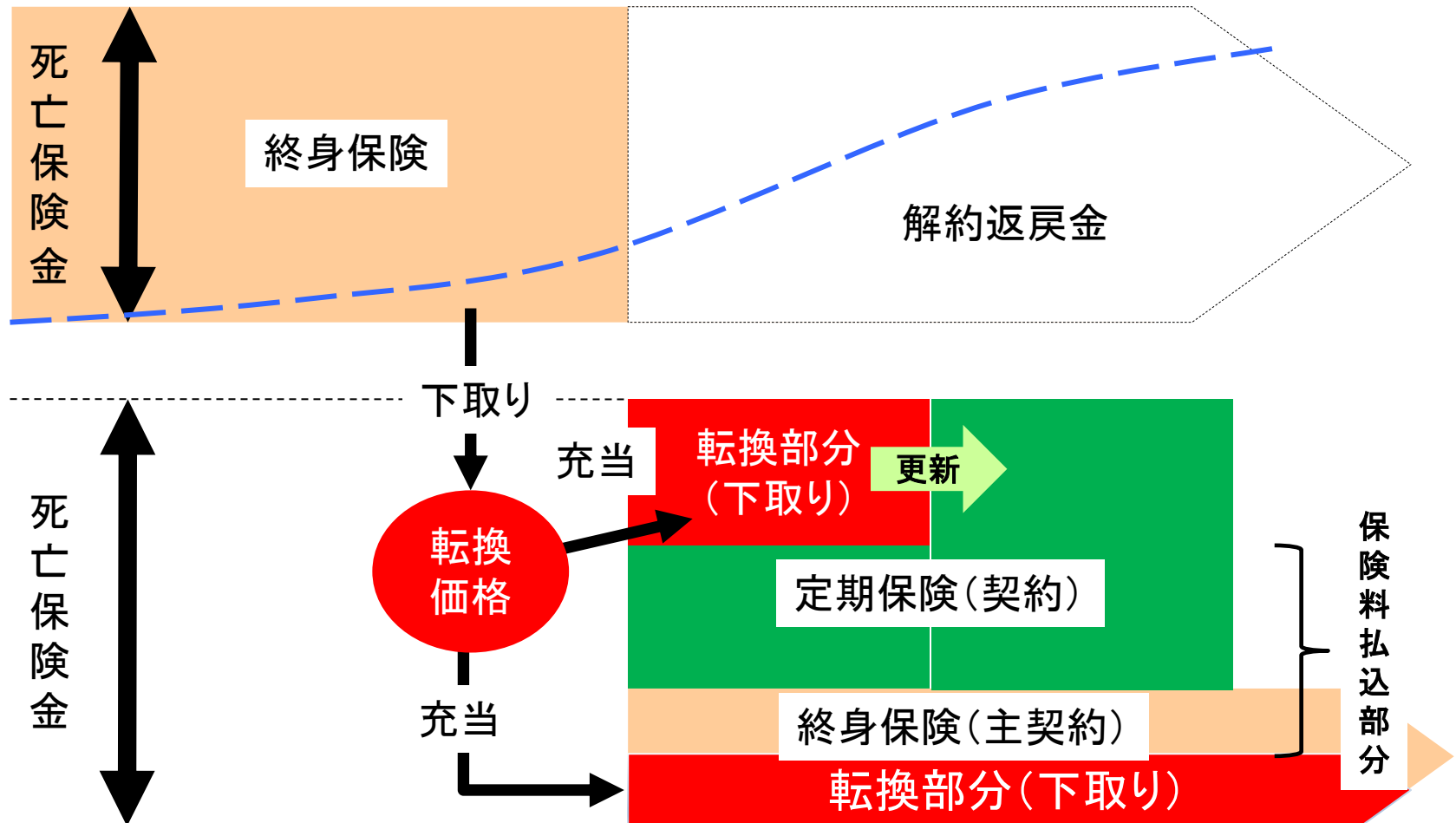
転換前の保険(一定額以上の解約返戻金のある保険)



転換価格を定期保険特約のみに充当する方式

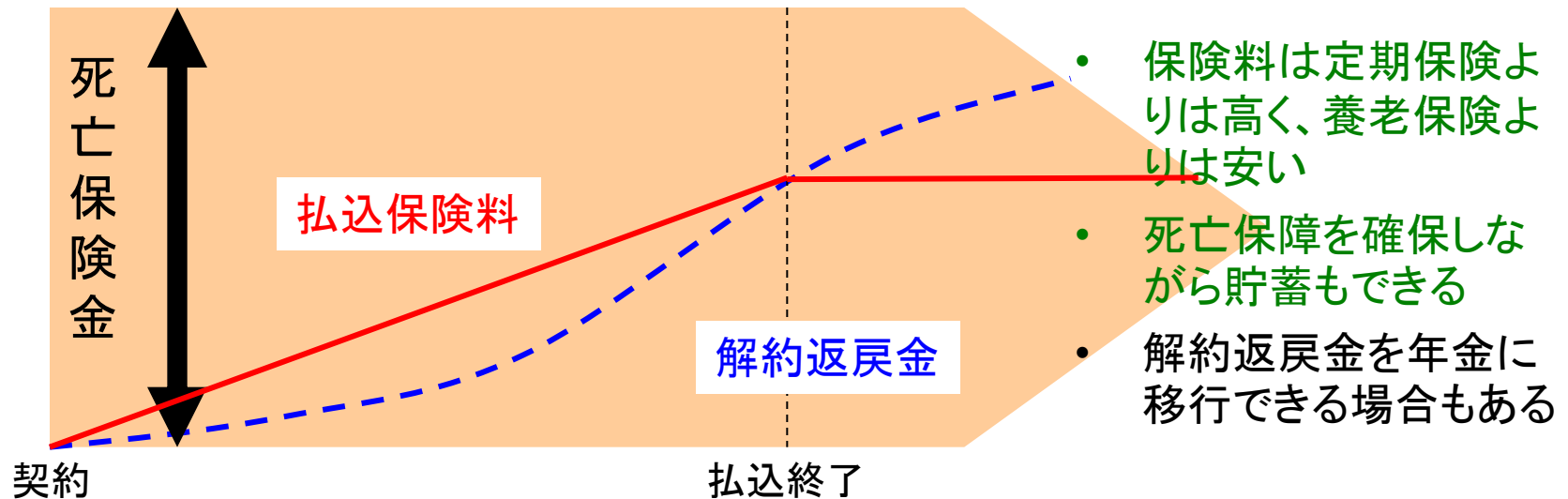
(例) 比例転換

転換前の保険(一定額以上の解約返戻金のある保険)



転換価格を主契約(終身)と定期特約に充当する方式

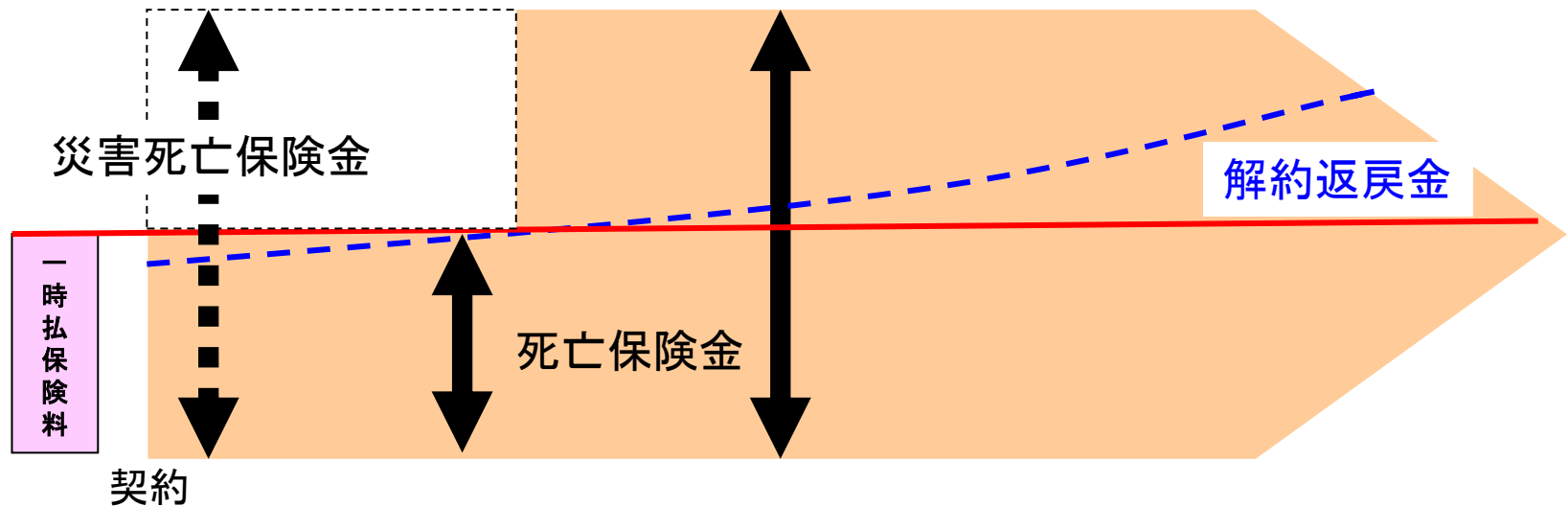
終身保険(有期払い)



<ポイント>

- 払込終了時に解約返戻率が**100%前後**になる。
- 解約返戻金と死亡保障金は105歳頃(男性)に同額になる。
(つまり105歳満期の養老保険といえる)※女性は108歳

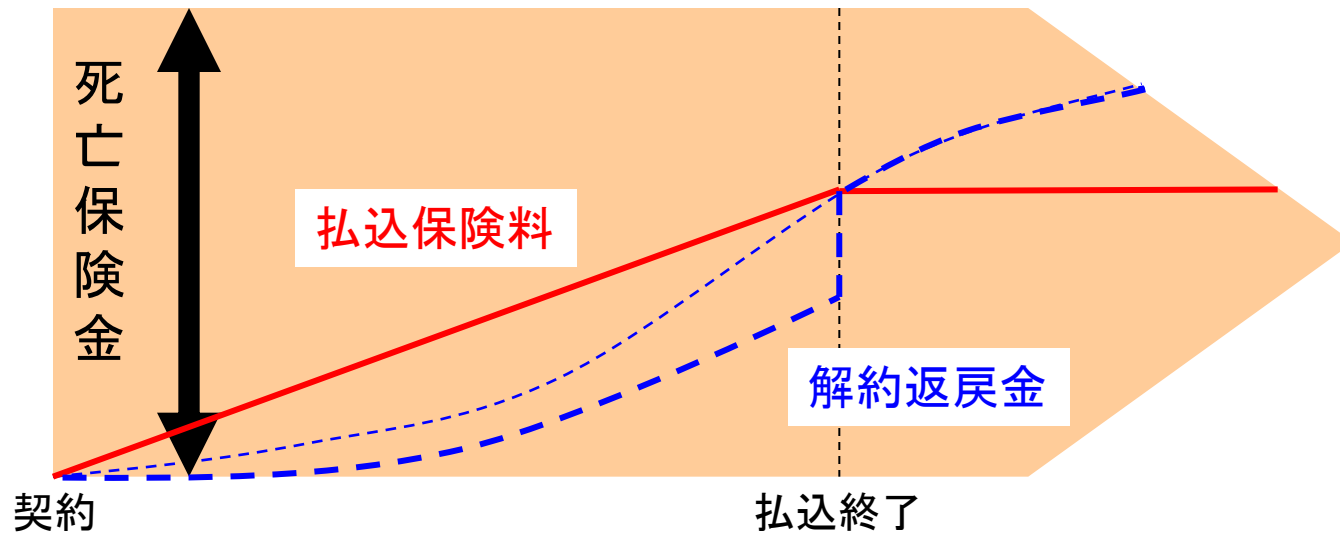
一時払い終身保険(金融機関取扱)



<ポイント>

- 解約返戻率が**100%**になるまでは病気死亡の場合、
一時払い保険料相当額＝死亡保険金額となる。
- 一般的に契約時の被保険者年齢が低いほど返戻率は良い。

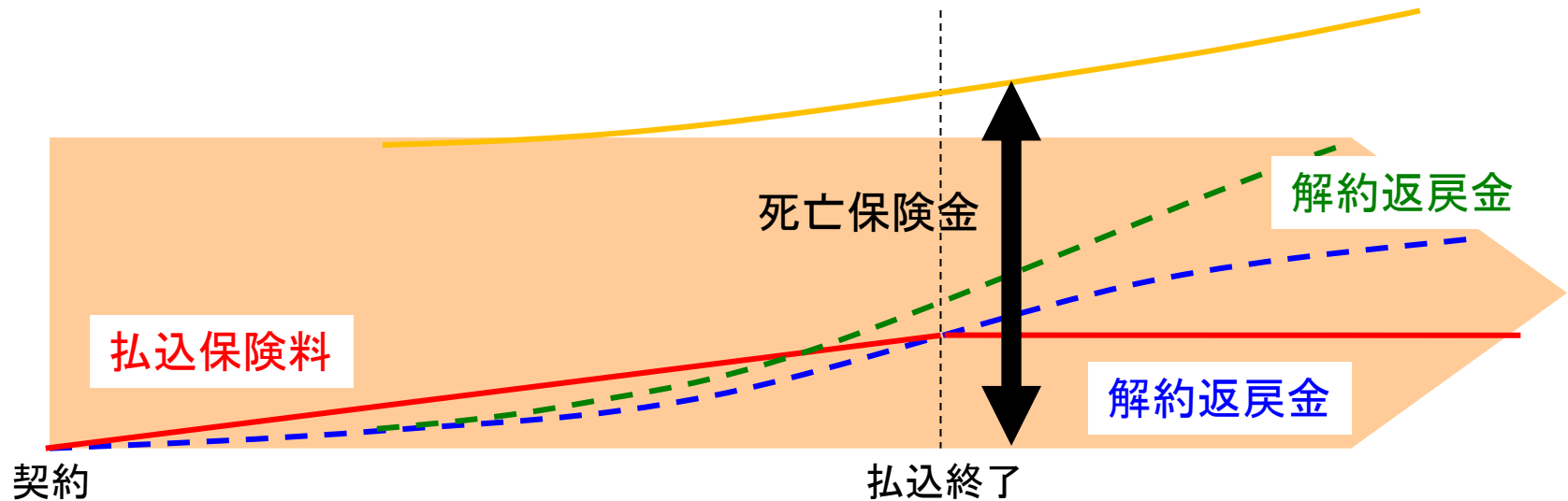
低解約返戻金型終身保険(有期払い)



<ポイント>

- 保険料払込期間中の解約返戻率を低くする(約70%)ことにより、保険料を安く抑えている。
- 払込終了後は通常の解約返戻率に戻る。

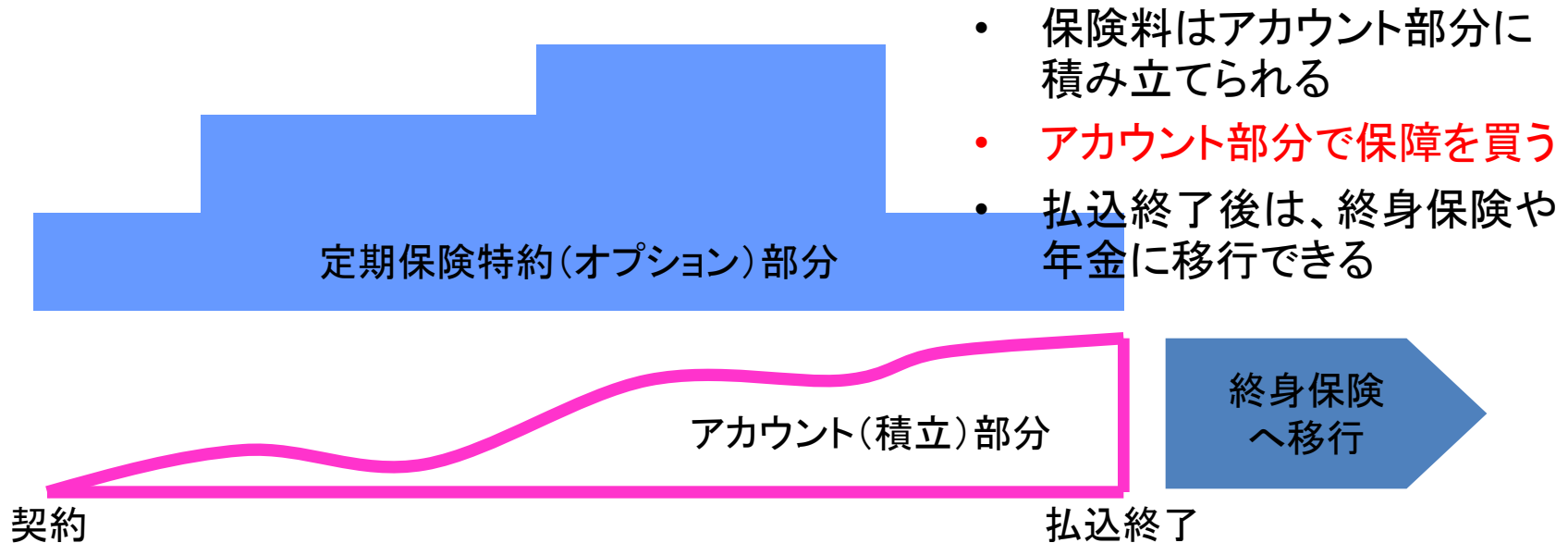
積立利率変動型終身保険(有期払い)



<ポイント>

- 契約時の積立利率が市場金利の上昇により引き上げられると、積立金が増加し死亡保障額や解約返戻金が増加する。
- 契約時の積立利率は最低保証されており、一旦引き上げられた積立利率は下がることはない(ラチェット型)

利率変動型積立終身保険(アカウント型保険)

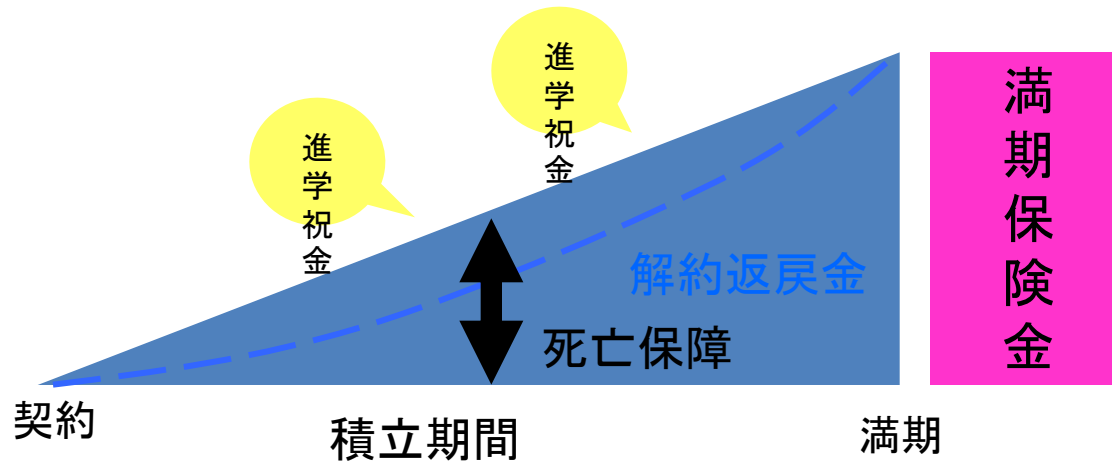


<お勧めは・・・>

- ニーズの変化に迅速に対応したい方
- 頼りになる保険営業マンが知り合いにいる方

※非常に複雑な商品のため、保険会社のいいなりにならないよう注意が必要！

こども保険(学資保険)



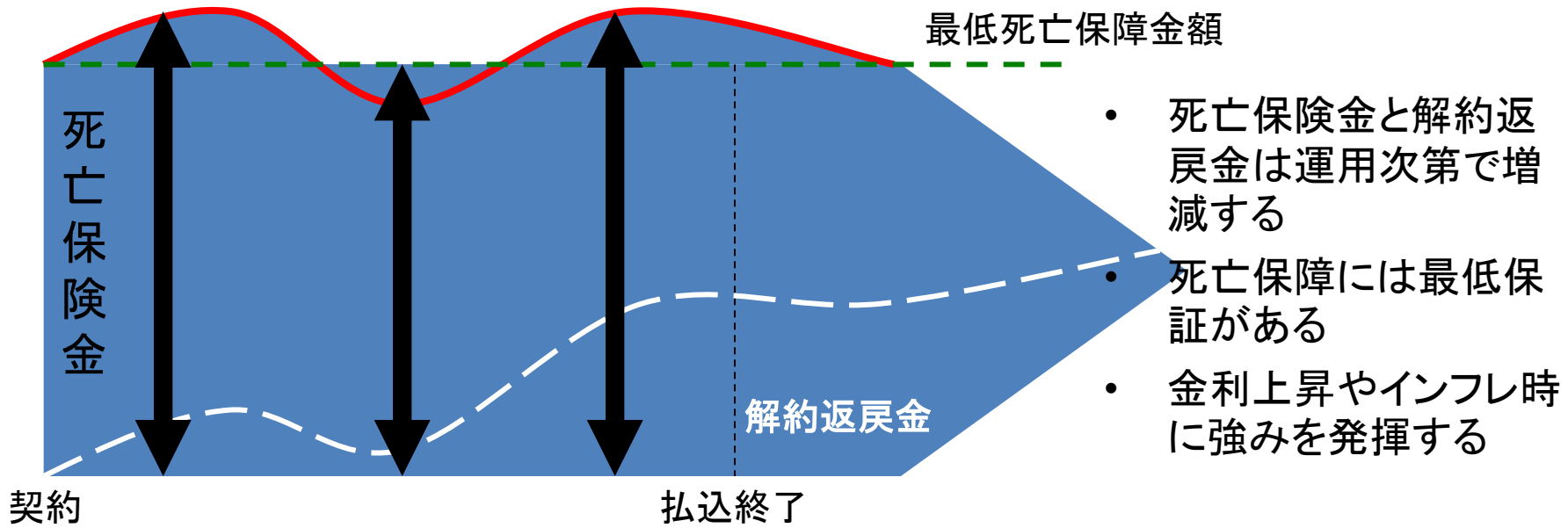
- 貯蓄性が強い
- 契約者＝保護者
被保険者＝子ども
- 保険期間中、契約者(保護者)が死亡した場合、以後の保険料免除
- 育英年金もあり

<お勧めは・・・>

- 子どもの将来の学費を計画的に準備したい人

※低金利時代の現在、ほとんどの商品は元本割れなので注意が必要である

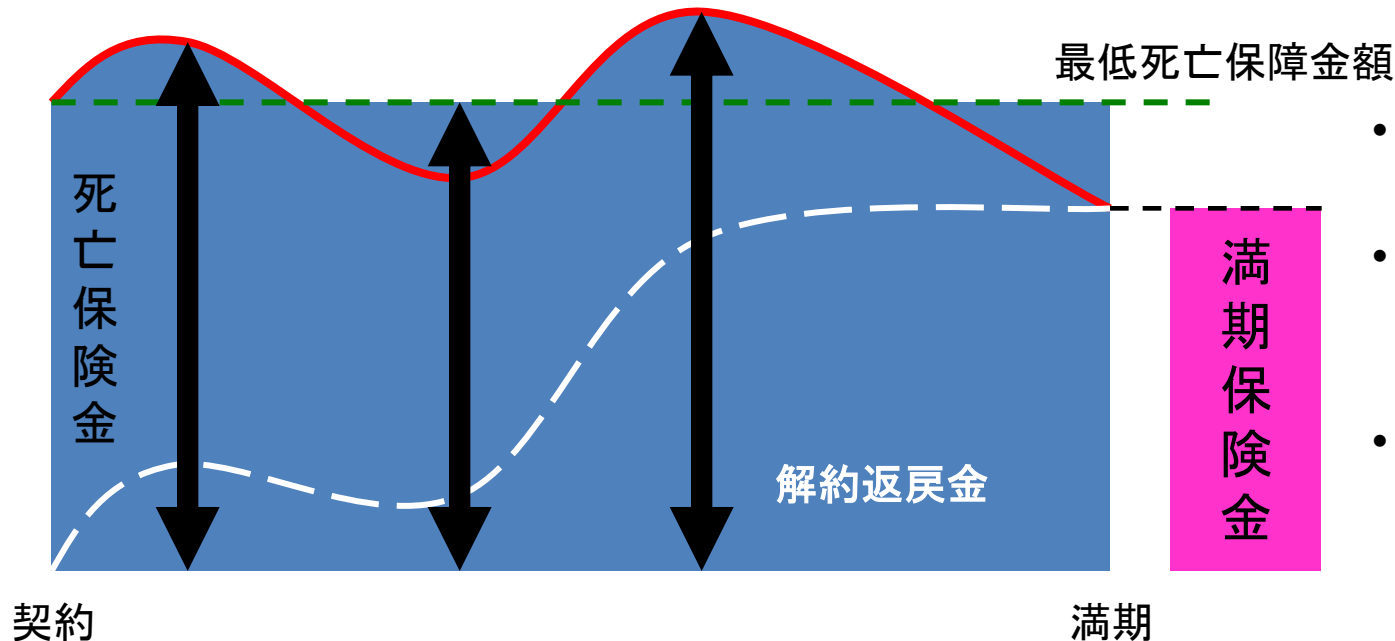
変額保険（終身型）



<お勧めは・・・>

- 将来の金利上昇やインフレが気になる人
(定額保険はインフレに弱い！)

変額保険(有期型)

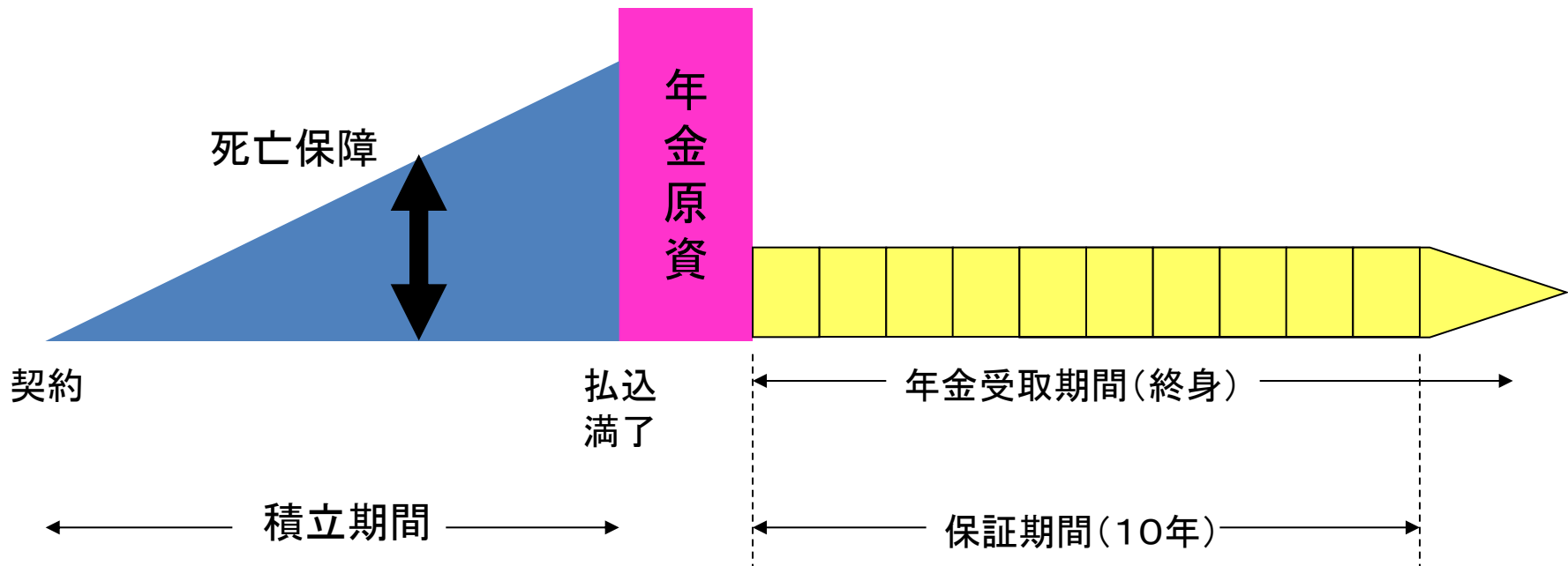


- 変額保険の養老版である
- 死亡保障には最低保証がある
- 満期保険金には最低保証がない

<お勧めは...>

- 将来の金利上昇やインフレが気になる人
- 保険で資産運用をしたい人

保証期間付き終身年金

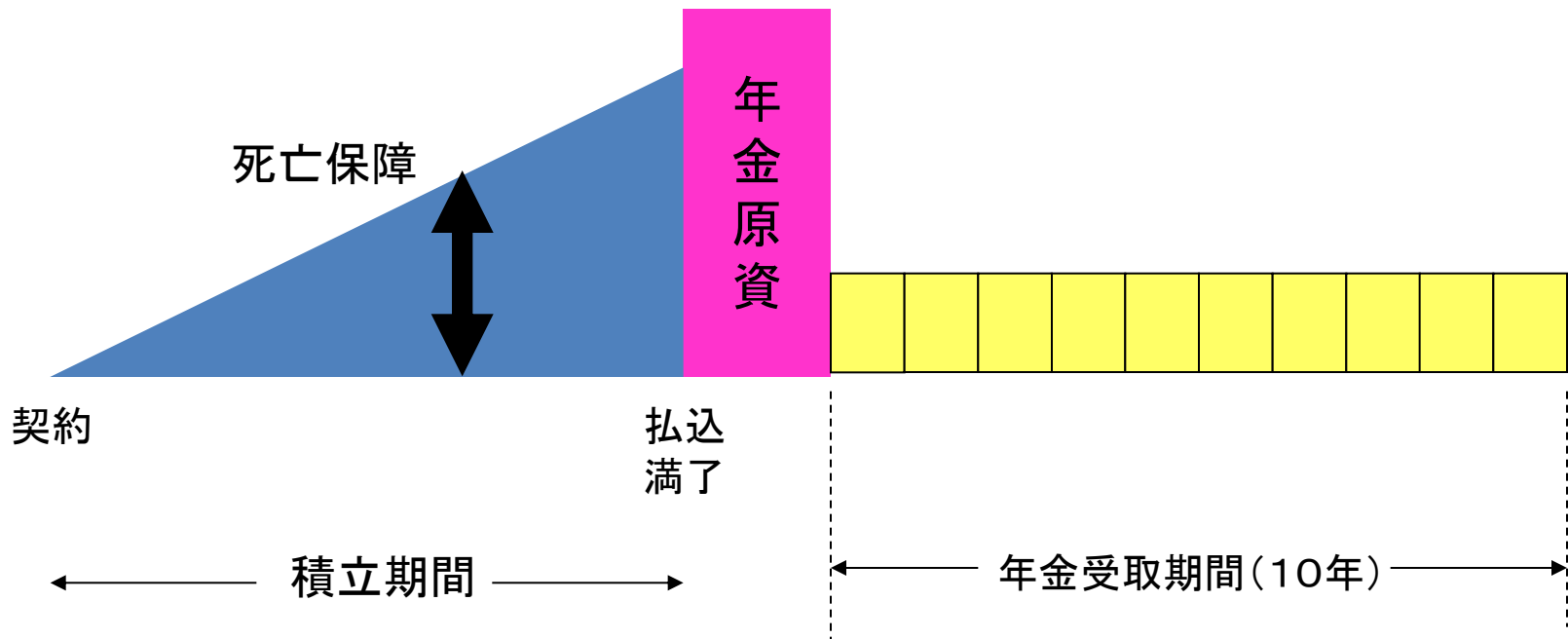


生存している限り、**生涯年金が支給される** (保証期間中は生死を問わない)

保険料が同じ場合、**年金額は有期年金や確定年金よりも少ない**

年金額が同じ場合、**保険料は有期年金や確定年金よりも高い**

確定年金

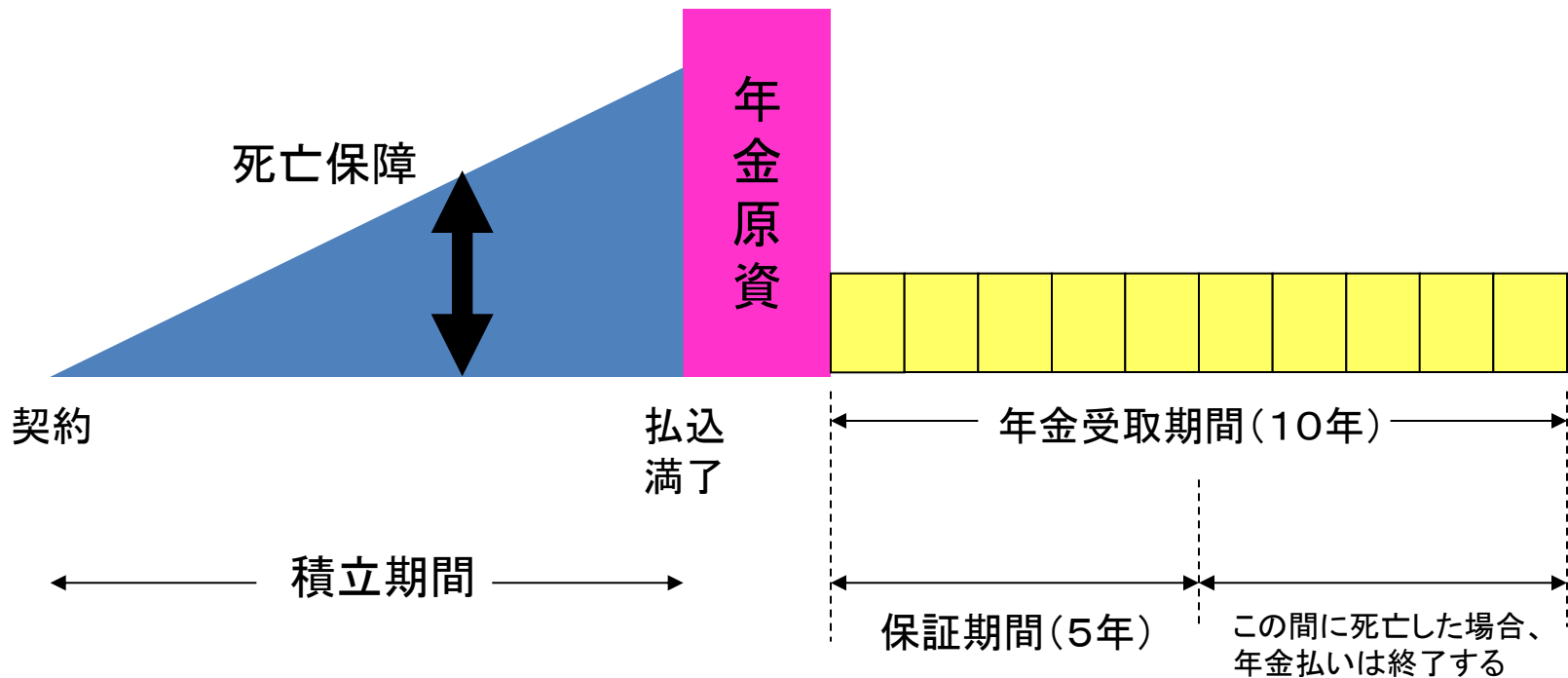


生死に関わらず、一定期間年金が支給される(受取人が死亡した場合は遺族)

保険料が同じ場合、年金額は終身年金より多く有期年金よりも少ない

年金額が同じ場合、保険料は終身年金より安く有期年金より高い

保証期間付き有期年金

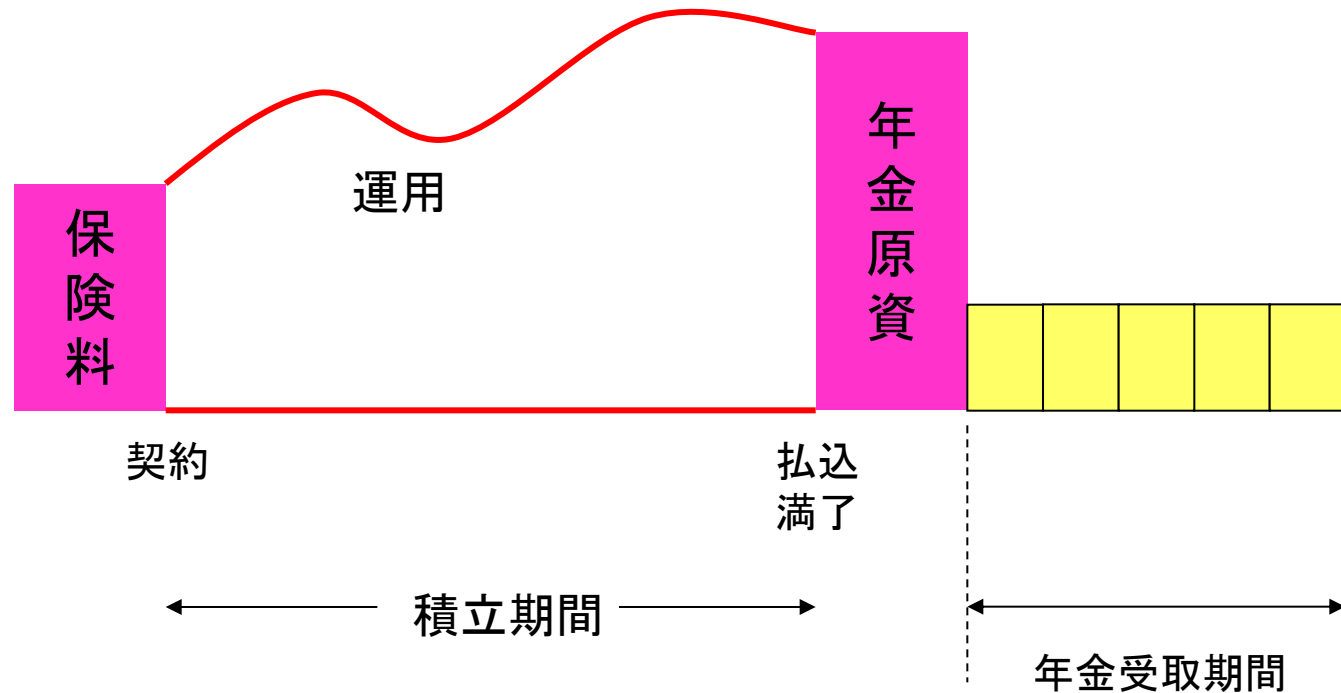


契約で定められた年金受取期間中に生存している限り、年金が支給される。

保険料が同じ場合、**年金額は有期年金や確定年金よりも多い**

年金額が同じ場合、**保険料は有期年金や確定年金より安い**

変額個人年金保険



保険料は一時払いが一般的

受取年金額は運用次第(但し、受取開始後の年金額は原則一定)

しくみは投資信託と同じ(ファンド・マネージャーによる資産運用)